

地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる異文化理解「世界の諸地域」

第2部第2章「世界の諸地域」では、どの州の学習でも、「写真で眺める」→自然環境という順番で展開し、地域的特色を理解するための土台をつくれるようにしています。

写真で眺める

自然環境、歴史・文化、産業などに関する写真を大きく掲載し、地域的特色を概観できるようにしています。

自然環境

異文化理解を深める上で基礎・基本となる各州の地形や気候などの自然環境を、人々の暮らしと関連付けながら、端的に理解できるようにしています。

【例】第2部第2章第2節「ヨーロッパ州」(p.64-79)

写真で眺める ヨーロッパ州

↑アルプス山脈を走る登山列車(スイス、インターラーケン近郊、2020年6月)列車で移動しながらアルプス山脈の雄大な景色を楽しむことができます。 p.66

↑歴史的な建築物がみられる町並み(イギリス、ロンドン、2015年) p.68、76

↑地中海のティアラ(サントリーニ)島を訪れる観光客(ギリシャ、2017年7月) p.67

↑モゼル川のそばに立つ古城(ドイツ、コブレンツ近郊、2018年)モゼル川は、フランスやルクセンブルク、ドイツを流れる国境川で、川沿いには古くから栄えた町が点在しています。 p.66

↑巨大な平原を走る高速列車(フランス)

↑ヨーロッパの自然環境(資料活用)北緯40度の緯線を渡る場所に注目しよう。

↑ヨーロッパには、歴史のある建築物がたくさんあって、観光名所になっている所が多いんだね。

↑ヨーロッパ州の学習を振り返ろう

↑p.79の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺めるヨーロッパ州」をつくろう

この節では、特に写真にみられるような「国どうしの結びつきの強まり」を主題に、ヨーロッパ州がどのような特色をもつ地域なのか、学習しよう。

↑p.64-65

第2節 ヨーロッパ州

2節の問い ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まり(ヨーロッパ統合)が生まれている。国どうしの結びつきが生まれているのはなぜか。

1 ヨーロッパ州の自然環境

ヨーロッパ州は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのか。

ヨーロッパは、ユーラシア大陸の西部に位置し、西は大西洋、南は地中海など、さまざまな海に面しています。ヨーロッパの中央部にはアルプス山脈が東西に連なり、高い山々がそびえています。ヨーロッパの地形は、このアルプス山脈を境として、南北で異なります。

アルプス山脈の北側には、フランス平原や東ヨーロッパ平原などの広大な平野が広がり、ライン川やドナウ川などの国際河川が流れています。これらの河川は、流れが緩やかで水運に適しており、その多くが運河で結ばれています。そのため、流域の都市を結ぶ交通路として重要な役割を果たしてきました。さらに、ヨーロッパの北部に位置するスカンディナ비아半島には、氷河によって削られた谷に海水が深く入り込んだフィヨルドとよばれる地形もみられます。一方、アルプス山脈の南側は、北側よりも山がちで平野が少なく、流れの急な河川もみられます。また、火山も多く、イタリアやギリシャなどでは地震がしばしば発生します。

ヨーロッパの大部分は、日本に比べて高緯度に位置していますが、大西洋を北上する暖流の北大西洋海流と、その上空を吹く偏西風の影響を受けて、比較的温暖です。なかでも、大西洋や北海に面した地域は西岸海洋性気候となっており、冬でも寒さはそれほど厳しくありません。この地域では、1年を通して降水量が安定しているので、小麦をはじめ、さまざまな作物の栽培、牧畜、畜産が盛んです。

一方、ギリシャやイタリア、スペインなどの地中海沿岸は、夏は晴天が続いて乾燥する地中海性気候であり、曇り空が多いイギリスやドイツの人々にとっての夏のリゾートになっています。

北極圏にかかるスカンディナ비아半島の大部分やヨーロッパの東部、標高が高いアルプス山脈の周辺といった地域は、冬の寒さが厳しい亜寒帯(冷帯)です。北極圏の地域では、夏になると太陽が沈んでも暗くならない白夜とよばれる現象がみられ、短い夏の期間を森のなかの別荘などで過ごす人が多いです。

ヨーロッパの主な山脈や平原、河川の位置を、図で確認しよう。

ヨーロッパ州の地形や気候の特徴を、アルプス山脈の南北に分けて説明しよう。

↑ヨーロッパ州の主要都市の気温

北半球・南半球とも1年を通じて10度から20度付近にかけての地域で、3月から南半球の夏にかけて一年中気温が安定しています。

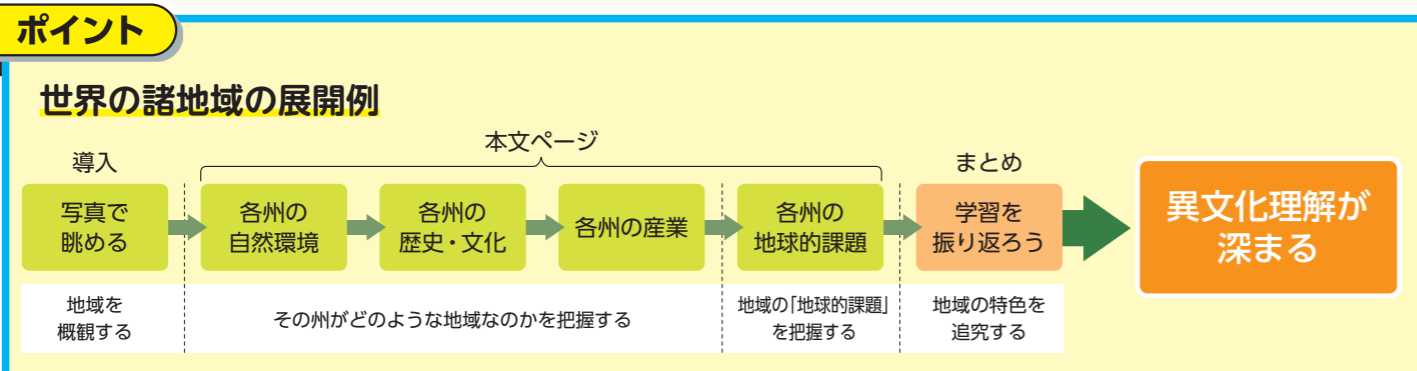
↑ヨーロッパ州の主要都市の気温(資料活用)気温と降水量のグラフを確認しよう。

↑ヨーロッパ州の主要都市の気温(資料活用)気温と降水量のグラフを確認しよう。

↑p.66-67

地形がわかる地図と雨温図から、自然環境の概要を理解できるようにしています。

高緯度にもかかわらず温暖な気候と、人々の生活や産業を関連付けながら、自然環境を理解できるようにしています。



地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる異文化理解「世界の諸地域」

歴史・文化を扱うページでは、地域によって異なる暮らしぶりを理解できるようにしています。産業などを扱うページでは、**地域の特色ある事象**を取り上げています。

歴史・文化

日本とは大きく異なる世界各州の人々の暮らしや文化の特色を、**歴史的な背景も踏まえて**理解できるようにしています。

産業

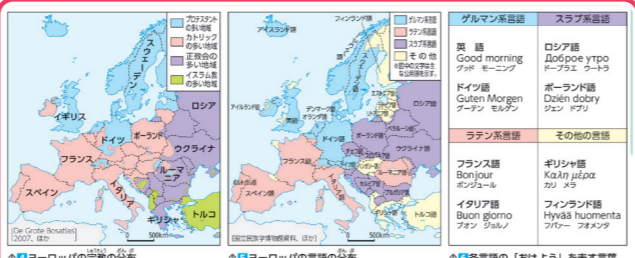
地域の特色ある産業などを理解できるようにしています。



ドイツの人々にとって、クリスマスはどんな行事なのかな？

カトリックの祭り、謝肉祭(カーニバル)

キリスト教には、毎年3月もしくは4月にキリストの復活を祝うイースターという祭りがあり、カトリックでは、その46日前から肉食を禁じる伝統があります。この肉食禁止の時期に入る前に、家族や友人と肉を食べる楽しみを満喫するために、これが謝肉祭の起源になったといわれています。現在では、仮装をしたり、山車をつくってパレードを行ったりする謝肉祭が、カトリック文化圏で広くみられる季節行事になっており、植民地時代にカトリックが広まった南アメリカの国々でもみられます(p.110)。



ヨーロッパの言語の分布

ヨーロッパの言語は、大きく分けてゲルマン系言語、ロマンス系言語、スラブ系言語、その他の言語に分けられます。

ゲルマン系言語	ロマンス系言語	スラブ系言語	その他の言語
英語: Good morning ドイツ語: Guten Morgen オランダ語: Goede Morgen	フランス語: Bonjour イタリア語: Buon giorno スペイン語: Buenos días	ロシア語: Доброе утро ポーランド語: Dzień dobry チェコ語: Dobry den	ギリシア語: Καλημέρα ヘブライ語: שחרית ヒンディー語: सुबह

多様な文化が共存する社会

ヨーロッパでは、固有の言語やキリスト教を中心とした文化が育まれてきました。その一方、かつてヨーロッパ諸国の植民地だったアジアやアフリカの国々からの移民や難民、トルコなどの周辺諸国からの労働者など、多様な異なる文化をもつ人々がヨーロッパに移り住み、イスラム教を信仰する人も増えてきました。そのため、現在のヨーロッパでは、多様な文化をもつ人々が互いに支え合いながら暮らす共生社会が目指されています。そこでヨーロッパ諸国は、移民や難民を受け入れるための制度を整え、学校教育では異文化について学んだり、移民や難民に対して現地語の習得を支援したりする取り組みを行っています。

2 ヨーロッパ文化の共通性と多様性

ヨーロッパの国々には、文化にどのような共通性や多様性が見られるのだろうか。

ヨーロッパでは、多くの地域でキリスト教が信仰されています。クリスマスやイースター(復活祭)など、キリスト教の重要な行事の期間は、家族や友人と集まって祝います。ヨーロッパの町や村の中心には、キリスト教の教会があり、日曜日には多くの人が礼拝に訪れます。結婚式や葬儀など、人生の節目となる儀式の多くが教会で行われ、キリスト教はヨーロッパの人々の生活に深く根づいています。

ヨーロッパで信仰されるキリスト教には、プロテスタント、カトリック、正教会という宗派の違いがあります。イギリスやドイツ北部、スウェーデンなどではプロテスタントを信仰する人が多いのに対して、イタリアやスペイン、フランスなどではカトリックが一般的です。また、ロシアやギリシャなどに住む人の多くは、正教会を信仰しています。

ヨーロッパのさまざまな言語も、およそ三つの系統に分けることができます。北西部では、英語やドイツ語などのゲルマン系言語

p.68-69

節の問いにつながる「国どうしの結びつきの強まり」が生まれる要因について、ヨーロッパには国を越えた共通の文化や言語があることを学ぶことで理解できるようにしています。また、移民や難民についての最新情勢についても触れています。

かつてヨーロッパ諸国の植民地だったアジアやアフリカの国々からの移民や難民、トルコなどの周辺諸国からの労働者など、多様な異なる文化をもつ人々がヨーロッパに移り住み、イスラム教を信仰する人も増えてきました。そのため、現在のヨーロッパでは、多様な文化をもつ人々が互いに支え合いながら暮らす共生社会が目指されています。そこでヨーロッパ諸国は、移民や難民を受け入れるための制度を整え、学校教育では異文化について学んだり、移民や難民に対して現地語の習得を支援したりする取り組みを行っています。

同縮尺の地図で、比較をしやすいようにしています。



航空機の部品を専用貨物機に積み込む様子(ドイツ、ブレーメン)。ブレーメンの部品工場で製造された航空機の胴体部品が、最終組み立て工場へと輸送されています。

5 ヨーロッパ州の工業とEUの影響

ヨーロッパ州の工業はどのように変化し、EU統合によってどのような影響が生じているのだろうか。

国を超えて発達した航空機産業

ヨーロッパでは、医薬品、精密機械などを生産する先端技術産業が発達しています。先端技術産業の一つである航空機産業では、フランスとドイツの企業が共同で設立したエアバス社が、アメリカ合衆国のボーイング社とともに世界の航空機市場の大半を占めています。現在では、スペインなどのEU諸国の企業やイギリスの企業も参加し、新しい航空機の開発に向けて国を超えた協力体制がとられています。エアバス社のエンジンはイギリス、胴体はフランスで製造されるなど、各国の企業の専門的な技術を生かした国際分業が行われています。

EU統合で拡大するヨーロッパの工業地域

ヨーロッパでは、18世紀の半ば以降、世界で最初に工業が発達しました。その後、ドイツのルール工業地域に代表されるように、鉄鉱石や石炭といった地域の資源を生かした重工業が発達し、第二次世界大戦後の西ヨーロッパの経済成長を支えました。しかし、1960年代にエネルギーの主役が石炭から石油へと変化すると、工業の中心はだいたい石油化学工業へと移り、ロッテルダムやマルセイユ近郊など、原油の輸入に便利な臨海部に工場が集中するようになりました。

p.74

ヨーロッパで工業が発達した歴史的背景を丁寧に解説することで、工業の特色を理解できるようにしています。

写真とキャラクターの発言から、ヨーロッパでは国際分業が行われているという工業の特色につながる導入にしています。



ヨーロッパの主要工業地域

脱炭素社会に向けたヨーロッパ

ヨーロッパでは、脱炭素社会(Net-zero)に向けた取り組みが数多くみられます。再生可能エネルギーの導入をはじめ、環境への負荷が小さい鉄道の利用促進、電気自動車の普及に向けた充電スタンドの設置などがみられます。

2018年ごろからは、ヨーロッパの各地で、多くの人が参加し、政府に対して気候変動への対策を訴えかける運動も活発になっています。脱炭素社会の実現のためには、それを受ける技術革新やしくみづくりとともに、個人がもつ意識の変化も重要となってきます。

フランスのパリに向かう国際列車に乗り込む人々(オーストリア、ウィーン、2023年)。航空機や自動車に代わる長距離の移動手段として、飛行機の利用が減少しています。

現在、工業生産や経済活動が活発な地域は、ロンドンやフランクフルト、ミュンヘンなどの大都市近郊に移動しています。そして、情報通信技術(ICT)産業がストックホルムやヘルシンキで発達するなど、工業が盛んな地域はヨーロッパ各地に拡大しています。

工業地域の拡大には、EU加盟国の拡大とも関係しています。2004年以降にEUに加盟した東ヨーロッパの国々は工業化が遅れていました。しかし、資金が安く、製品を安く生産できることから、西ヨーロッパの企業が工場を移転する動きが活発になっています。また、域内にたくさんの人が暮らすEUの巨大な市場を求めて、自動車や電気機械などをつくる日系企業も、ポーランドやチェコといった東ヨーロッパの国々に進出しています。東ヨーロッパの国々は、多くの雇用を創出し、高度な工業技術や知識をもたらしてくれる外国企業の進出に大きな期待を寄せています。

過去には工業が発達する過程で、工場からの廃水、排煙による河川の水質汚濁や大気汚染、酸性雨を原因とする森林破壊が起こりました。こうした経験から、ヨーロッパの国々は、再生可能エネルギーの導入や、環境への負荷が小さい電気自動車などの開発にも取り組んでいます。

p.74-75

脱炭素社会に向けた取り組みなど、各州の最新動向を紹介しています。

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる異文化理解「世界の諸地域」

本文ページの最終見開きでは、各州に見られる地球的課題とその対策について扱っています。単元の最後には、全体を振り返り、地域的特色をまとめる「学習を振り返ろう」を設置しています。

地球的課題

環境問題など、地球的課題について、各州の具体例をもとに理解できるようにしています。

学習を振り返ろう

白地図を用いた知識・技能の確認と、思考ツールを用いた学習内容の整理を行い、最後に「節の問い」に対する自らの考えをまとめられるようにしています。

異文化理解が深まる

6 EU統合による課題への取り組み

EU域内の移動が自由になった結果、より多くの収入を求めて、東ヨーロッパの国から西ヨーロッパの国へ出稼ぎに行く労働者が増えています。そのため、東ヨーロッパでは労働力不足が深刻で、特に高い技術や能力をもった人材の流出は、東ヨーロッパの国々の発展を妨げる要因の一つとなっています。このような背景から、EU加盟国間の月平均賃金には最大で5倍近くの差が生じており、経済格差の解消が課題となっています。

一方、西ヨーロッパでは、企業が生産拠点を東ヨーロッパに移したことで、国内の雇用が減っています。また、EU域外からの移民や難民への支援の増加も問題となっています。

EUでは、財政が豊かな国々を中心として支援策の策定を進めてきたEUはどのような課題を抱えているのだろうか。

EU域内の経済格差

EU域内の移動が自由になった結果、より多くの収入を求めて、東ヨーロッパの国から西ヨーロッパの国へ出稼ぎに行く労働者が増えています。そのため、東ヨーロッパでは労働力不足が深刻で、特に高い技術や能力をもった人材の流出は、東ヨーロッパの国々の発展を妨げる要因の一つとなっています。このような背景から、EU加盟国間の月平均賃金には最大で5倍近くの差が生じており、経済格差の解消が課題となっています。

一方、西ヨーロッパでは、企業が生産拠点を東ヨーロッパに移したことで、国内の雇用が減っています。また、EU域外からの移民や難民への支援の増加も問題となっています。

EUでは、財政が豊かな国々を中心として支援策の策定を進めてきたEUはどのような課題を抱えているのだろうか。

EU域内の経済格差

EU域内の移動が自由になった結果、より多くの収入を求めて、東ヨーロッパの国から西ヨーロッパの国へ出稼ぎに行く労働者が増えています。そのため、東ヨーロッパでは労働力不足が深刻で、特に高い技術や能力をもった人材の流出は、東ヨーロッパの国々の発展を妨げる要因の一つとなっています。このような背景から、EU加盟国間の月平均賃金には最大で5倍近くの差が生じており、経済格差の解消が課題となっています。

一方、西ヨーロッパでは、企業が生産拠点を東ヨーロッパに移したことで、国内の雇用が減っています。また、EU域外からの移民や難民への支援の増加も問題となっています。

EUでは、財政が豊かな国々を中心として支援策の策定を進めてきたEUはどのような課題を抱えているのだろうか。

p.76-77

ヨーロッパ州では地球的課題のうち「経済格差」について、EU域内で生じている経済格差の現状を因果関係のわかる本文で解説しています。

EU域内の経済格差

EU域内の移動が自由になった結果、より多くの収入を求めて、東ヨーロッパの国から西ヨーロッパの国へ出稼ぎに行く労働者が増えています。そのため、東ヨーロッパでは労働力不足が深刻で、特に高い技術や能力をもった人材の流出は、東ヨーロッパの国々の発展を妨げる要因の一つとなっています。このような背景から、EU加盟国間の月平均賃金には最大で5倍近くの差が生じており、経済格差の解消が課題となっています。

一方、西ヨーロッパでは、企業が生産拠点を東ヨーロッパに移したことで、国内の雇用が減っています。また、EU域外からの移民や難民への支援の増加も問題となっています。

EUでは、財政が豊かな国々を中心として支援策の策定を進めてきたEUはどのような課題を抱えているのだろうか。

また、課題解決のために行われている対策や最新情報まで解説しています。

地理プラス ヨーロッパとの結びつきからみたロシア

ロシアの自然環境

ロシアの国土の大部分はタイガと呼ばれる針葉樹林が広がっており、北極海沿岸にはツンドラもみられます。南部のステップ（→p.28）では、小麦やライ麦などが栽培されています。

ロシアの人口と民族

ロシアには100を超える少数民族が暮らしていますが、全体の8割を占めるのはロシア人で、一般的にロシア人が使われています。ロシア人の多くは正教会（→p.68）を信仰し、パレヤやオベラなど、ヨーロッパと共通した文化を継承してきました。また、寒い気候を生かしたさまざまな世界大会が開かれてきました。

ロシアには100を超える少数民族が暮らしていますが、全体の8割を占めるのはロシア人で、一般的にロシア人が使われています。ロシア人の多くは正教会（→p.68）を信仰し、パレヤやオベラなど、ヨーロッパと共通した文化を継承してきました。また、寒い気候を生かしたさまざまな世界大会が開かれてきました。

ロシアには100を超える少数民族が暮らしていますが、全体の8割を占めるのはロシア人で、一般的にロシア人が使われています。ロシア人の多くは正教会（→p.68）を信仰し、パレヤやオベラなど、ヨーロッパと共通した文化を継承してきました。また、寒い気候を生かしたさまざまな世界大会が開かれてきました。

77

ロシアについてはコラム「地理プラス」で記述しています。2022年のロシアによるウクライナ侵攻以降の情勢まで解説しています。

2節 (p.64~77) ヨーロッパ州

2節の問い ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

1節の振り返り1 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう

1. A~Fにあてはまる国名を答えよう。
2. ①~④にあてはまる山脈名、河川名、半島名、海洋名を答えよう。
3. ①~④にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

2節の振り返り2 節の問いについて、あなたの考えをまとめよう

EUの統合による効果

人の動き	・パスポートなしで自由に国境を行き来できるため、好きな国に住んだり、好きな国で働いたりできるようになった
物の動き	・共通農業政策がとられているため、経済的に不安定な東ヨーロッパの国々の農業に支出する補助金が増加した
通貨	・スウェーデンやデンマークなど、EUに加盟していてもユーロを導入せず、独自の通貨を使っている国もある
産業	・国際的な分業による航空機の製造など、国境を超えた技術協力ができるようになった

EUの統合によって生じた課題

・共通農業政策がとられているため、経済的に不安定な東ヨーロッパの国々の農業に支出する補助金が増加した

・スウェーデンやデンマークなど、EUに加盟していてもユーロを導入せず、独自の通貨を使っている国もある

・国際的な分業による航空機の製造など、国境を超えた技術協力ができるようになった

まとめ

EUの統合によって、人々の移動が自由になり、物や技術の行き来が活発になりました。また、共通の通貨や農業政策も導入されています。しかし、加盟国間の経済格差や、加盟していない国の存在も課題となっています。

78

左ページでは、白地図を用いながら自然環境と気候、農業の関連性などを記述した文章の穴埋めをして、重要用語の確認ができるようにしています。

右ページでは、思考ツールの「マトリックス」を用いて「EUの統合による効果」と「EUの統合によって生じた課題」を整理できるようにしています。表にまとめることで比較がしやすくなり、節の問い「ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。」について、自らの考えをまとめられるようにしています。

詳しくは本資料p.35-36

p.78-79

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解「日本の諸地域」

第3部第3章「日本の諸地域」では、どの地方もイラスト地図→「写真で眺める」という順番で展開しています。これから学習する地域を概観できるようにしています。

イラスト地図

地方を概観するイラスト地図を掲載しています。小学校からの橋渡しになるよう、手描き風の親しみやすい表現にしています。

写真で眺める

各地方の「注目する視点」(本資料p.28)に関連する写真を大きく掲載し、地域を具体的にイメージできるようにしています。また、「注目する視点」に関連する写真を取り上げることで、学習に見通しをもてるようにしています。

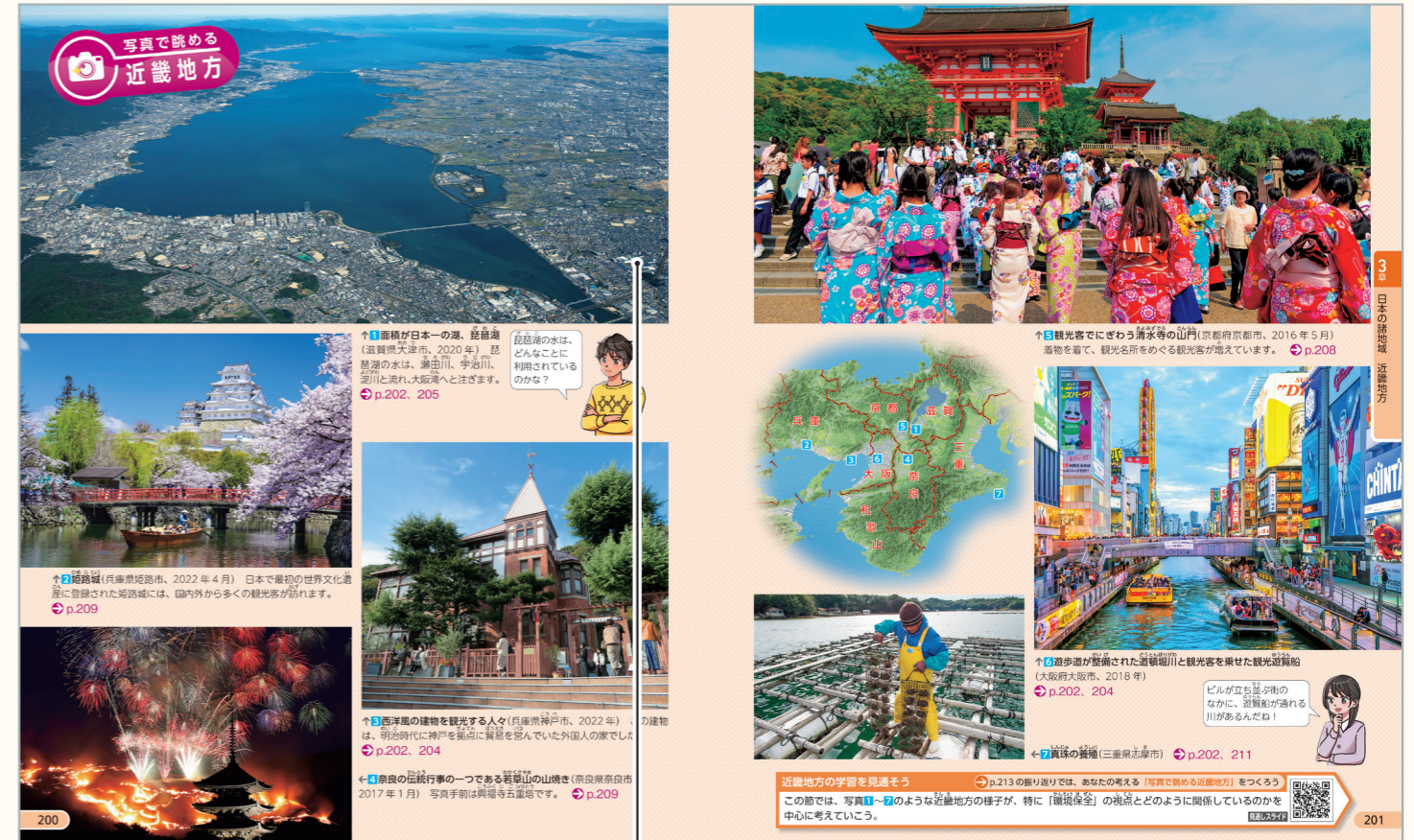
【例】第3部第3章第3節「近畿地方」(p.199-216)



↑p.199

イラスト地図にすることで、大まかな地形の様子を捉えられるようにしています。

特徴的な産業や文化などのイラストを掲載し、地域の特色を端的に捉えられるようにしています。

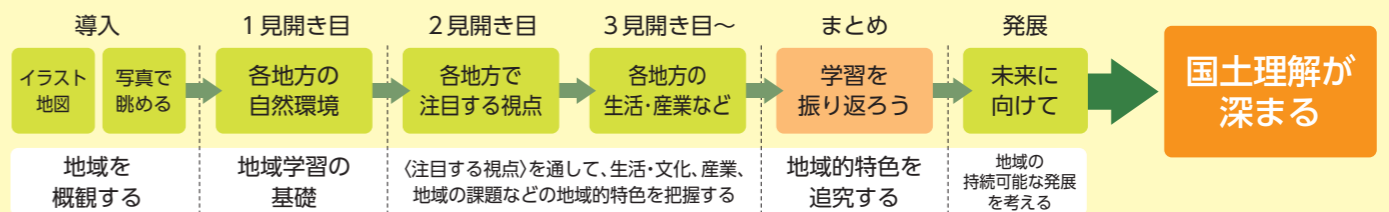


↑p.200-201

近畿地方では琵琶湖(=水質保全)や観光地(=景観保全)などの写真を掲載し、「注目する視点」が「環境保全」であることに着目できるようにしています。

ポイント

日本の諸地域の展開



地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解「日本の諸地域」

1 見開き目では、基礎・基本となる、地形や気候などの自然環境を扱っています。

2 見開き目では、各地方の「注目する視点」と関連の深い地理的事象を扱うことで、各地方で追究する主題を明確にしています。

自然環境

自然環境と人々の生活の関わりについて理解できるようにしています。

「注目する視点」と関連の深い地理的事象

〔近畿地方の場合：環境保全〕

京阪神で暮らす人々の大切な水がめである琵琶湖の水質保全のために、地域の人々がどのような課題と向き合い、克服してきたのか理解できるようにしています。

第3節 近畿地方

環境保全に注目して

3節の近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

1 近畿地方の自然環境

近畿地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。

中央部の平地と南北の山地

近畿地方は地形に注目すると、大きく北部・中央部・南部の三つの地域に分けられます。

山地/平地/人口

近畿地方の気候も、北部・中央部・南部で異なる気候があります。日本海に近い北部は、冬には北西からの季節風の影響で雨や雪が多く、山地にはスキー場がたくさんあります。一方、太平洋に近い南部は、暖流の影響で冬でも温暖で、和歌山県ではみかんや梅などの果樹栽培が盛んです。紀伊半島の南東側は、南東からの季節風が吹きつける夏に雨が非常に多く降るため、日本有数の多雨地域として知られます。温暖で雨が多い紀伊山地は、樹木を育てる林業が盛んな地域となっています。

中央部は、平野や盆地を中心に夏の暑さが厳しく、阪神甲子園球場で行われる夏の全国高校野球選手権大会は、暑さ対策が課題になっています。また、京都盆地などの内陸の盆地は、夏は暑さが厳しく、冬は冷え込むため、1年の気温の差が大きいのが特徴です。中央部は、北部と南部を山地に挟まれているので、年間を通して降水量が少なく、水不足のときでも田畑に水を運ぶように、播磨平野や奈良盆地などではため池が数多くつくられてきました。

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏

京阪神大都市圏の水源地である琵琶湖とその周辺では、水質や環境の保全のために、どのような取り組みが行われてきたのだろうか。

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏

京都、大阪、神戸を中心に広がる京阪神大都市圏は、東大都市圏に次いで人口が集中している地域です。大阪市を中心に鉄道や道路が周辺に伸び、沿線に市街地が広がっています。

ニュータウン

大都市の周辺に新しく建設された住宅地や市街地のことです。イギリスが発祥で、日本では1960年代に大阪府の平野地区に、1970年代に東部の多摩地区などに広がりました。

近畿地方の気候の特徴を、北部・中央部・南部に分けて説明しよう。

p.202-203

節の冒頭に「注目する視点」を提示しています。各地方の学習を、何に注目して見通すのかがわかるようにしています。

各地方の自然環境の特徴に応じた災害と、防災への取り組みを解説しています。

自然環境と人々の生活の関わりがわかる記述にしています。

平地が多く、近江盆地や京都盆地、奈良盆地などの盆地と、大阪平野や播磨平野などの平野が広がっています。これらの平地は古くから人々の生活の場となり、現在は京都・大阪・神戸などの大都市が集中する地域になっています。

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏

琵琶湖・淀川水系の水は、浄水場で安全な水道水となって京阪神大都市圏の人々の生活を支えており、流域全体の環境保全は、重要な課題となっています。琵琶湖では、周辺の農地で使われた肥料や、急速に増えた工場の廃水、家庭の生活排水などが流れ込んだことにより、1970年代から、赤潮やアオコとよばれるプランクトンの異常発生などが起こるようになり、水道水への影響が問題になりました。このため、琵琶湖周辺の住民は、水質悪化の原因となるりんを含む合成洗剤の使用中止と、りんを含まない「せつけん」の使用を呼びかける運動を始め、滋賀県も下水道の整備や工場廃水の制限に取り組みました。その結果、琵琶湖に流れ込む水質を悪化させる物質は、徐々に減少していき、近年では、水中のりんなどを養分として成長するヨシを湖岸に植えることにより、水質を改善しようとする取り組みなども行われています。また、大阪市内の淀川下流では、数が激減した天然記念物のイタセンバラの復活をめざして、市民と行政、研究者が協力して、生息地の確保や外来魚の駆除などに取り組んでいます。

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏

琵琶湖・淀川水系の水は、浄水場で安全な水道水となって京阪神大都市圏の人々の生活を支えており、流域全体の環境保全は、重要な課題となっています。琵琶湖では、周辺の農地で使われた肥料や、急速に増えた工場の廃水、家庭の生活排水などが流れ込んだことにより、1970年代から、赤潮やアオコとよばれるプランクトンの異常発生などが起こるようになり、水道水への影響が問題になりました。このため、琵琶湖周辺の住民は、水質悪化の原因となるりんを含む合成洗剤の使用中止と、りんを含まない「せつけん」の使用を呼びかける運動を始め、滋賀県も下水道の整備や工場廃水の制限に取り組みました。その結果、琵琶湖に流れ込む水質を悪化させる物質は、徐々に減少していき、近年では、水中のりんなどを養分として成長するヨシを湖岸に植えることにより、水質を改善しようとする取り組みなども行われています。また、大阪市内の淀川下流では、数が激減した天然記念物のイタセンバラの復活をめざして、市民と行政、研究者が協力して、生息地の確保や外来魚の駆除などに取り組んでいます。

p.204-205

京阪神大都市圏の概要をおさえた上で、琵琶湖水系について考えられる展開としています。多くの人口を支えるために大量の水が必要だからこそ、琵琶湖の水質保全が近畿地方の大きな課題のひとつであることを理解できるようにしています。

本文に書かれている人々の生活と琵琶湖の関係を、図版の読み取りを通じて深められるようにしています。

1960年代から郊外の丘陵地に「千里・泉北・須磨」などのニュータウンがいくつも建設されました。六甲山地が海岸まで迫っていて平野



解説

知識定着を図るための一助として、用語の「解説」を全53か所に設置しています。

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解「日本の諸地域」

3見開き目以降は、生活や産業など、各地方の特色ある事象を<注目する視点>と関連付けながら扱っています。また、その中で人々が地域の課題をどのように克服し、現在の発展に至ったのかを理解できるようにしています。

産業① [近畿地方の場合：工業+環境保全]

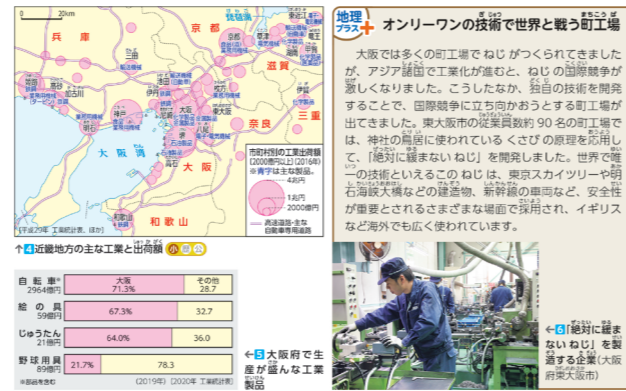
阪神工業地帯が発展の過程で経験した公害などの課題と、それをどのように克服したのかを理解できるようにしています。

産業② [近畿地方の場合：観光業+環境保全]

京都・奈良では、歴史的な景観を保全することで観光業が発展した経緯を扱い、環境(景観)保全が地域の発展に結びつくことを理解できるようにしています。



大阪湾沿岸の工業地帯の移り変わり(兵庫県姫路市) 3枚とも、ほぼ同じ場所を撮影しています。 ①1964年ごろ ②2010年 ③2023年



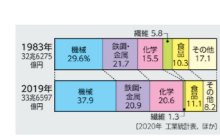
大阪では多くの町工場がねじがつくられてきました。アジア諸国で工業化が進むと、ねじの国際競争が激しくなりました。こうしたなか、独自の技術を開発することで、国際競争に立ち向かうとする町工場が出てきました。東大阪市の従業員数約90名の町工場では、神社の鳥居に使われているくさびの原理を応用して、「絶対に寝まないねじ」を開発しました。世界で唯一の技術といえるこのねじは、東京スカイツリーや明石海峡大橋などの建造物、新幹線の車両など、安全性が重要とされるさまざまな場面で採用され、イギリスなど海外でも広く使われています。



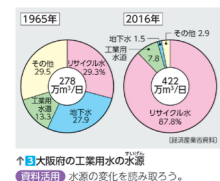
絶対に寝まないねじを製造する企業(大阪府東大阪市)

3 阪神工業地帯と環境問題への取り組み

3部の中核 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。



↑阪神工業地帯の工業出荷額



↑大阪府の工業用水の水源地別 水源の変化を読み取る。

3 阪神工業地帯では、工業の発展と共に生じた課題をどのように解決しようとしたのだろうか。

大阪湾沿岸の地域は、明治時代から繊維などの軽工業が、第二次世界大戦前後からは重化学工業が発達し、阪神工業地帯の中心として日本の工業を支えてきました。しかし、高度経済成長期に工業がさらに発展すると、地下水のくみ上げによる地盤沈下や、工場の排煙による大気汚染などの公害が深刻になりました。そのため、これらの対策として、地下水採取の規制や使用した水の再利用、排煙処理装置の設置が進められました。その結果、環境の改善が進み、今では廃棄物や二酸化炭素の排出ゼロに取り組む工場も増えています。

大阪湾沿岸には多くの埋立地があります。埋立地は原料や製品の海上輸送に便利なこと、1960年代には兵庫県尼崎市から大阪府大阪市、堺市にかけての埋立地、大規模な化学工場や製鉄所などがつくられました。しかし、1980年代に国内で工業の分散が進められたことで化学や鉄鋼などの工業が伸び悩み、工場の閉鎖や他地域への移転が進み、空き地が目立つようになりました。2000年代には、こうした工場の跡地に薄型ディスプレイなどの工場が進出して、新しい生産拠点が形成されました。しかし、工業化が進むと東ア

シア諸国との競争のなかで、生産は縮小しました。現在の臨海部は、工業地域としての再生が図られる一方で、大型の物流施設やテーマパーク、さらに公園や住宅などさまざまな利用が行われる地域へと変化しています。人工島の夢洲で開催される「2025年日本国際博覧会」でも、最先端の環境技術を生かした施設の整備が進められることになっています。

大阪府の東部にある東大阪市や八尾市などには、中小企業の町工場が数多くあります。これらの工場は、金属加工をはじめとする多様な業種からなり、自転車やその部品、文房具など、生活に関わりが深いさまざまな工業製品を生産しています。また、特殊な技術で知られる企業や、市場シェアの高い製品をつくる企業も少なくありません。一方、後継者不足などから廃業する企業もみられ、こうした工場の跡地に住宅が建設され、工場からの騒音や振動が問題となってしまうことがあります。そこで、時間帯によって騒音を規制するなどの対策を行い、工場と住民が共生できるまちづくりが進められています。

↑p.206-207

3 近畿地方の産業と環境問題

近畿地方の産業と環境問題の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

近畿地方の産業と環境問題の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

近畿地方の産業と環境問題の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

近畿地方の産業と環境問題の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

ポイント

興味・関心を喚起する写真

同じ場所でも撮影された時期が違ったり、同じ時期であっても場所の違ったりする写真を随所に掲載しています。複数の写真の比較から、さまざまな疑問が生まれるようにしています。

比較ができる写真 掲載ページ一覧

ページ	タイトル
p.19	活発な噴火を続ける西之島
p.49	雨季と乾季のトンレサップ湖の様子
p.52	シェンチェン(深圳)の変化
p.70	ドイツとポーランドの国境に架かる橋を行き来する人々や車
p.70	かつてのドイツとポーランドの国境
p.112	手作業でのコーヒーの実の収穫
p.112	大型機械を使ったコーヒーの実の収穫
p.115	アマゾン川流域の熱帯林の伐採
p.144	「さっぽろ雪まつり」の会場で雪遊びを楽しむ子どもたち
p.144	花見を楽しむ人々



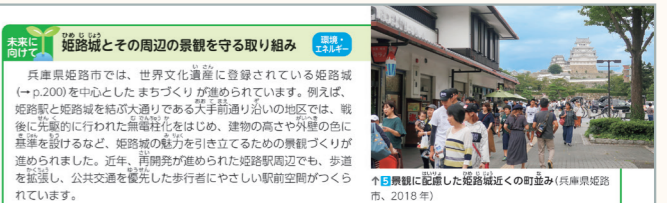
4 古都京都・奈良と歴史的景観の保全

3部の中核 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

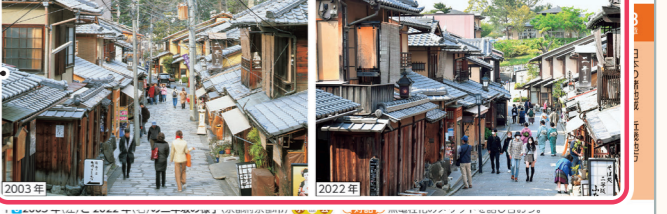
京都と奈良では、歴史的な景観を保全するために、どのような取り組みを行っているのだろうか。 京都の古くからの市街地では、西条通などの東西に延びる道路と、烏丸通などの南北に延びる道路が、春の目のように整然と交差しています。これは、平安時代につくられた平安京の道路網が、現在まで引き継がれているからで、京の通り名が使われます。ある通りから見て北にある場所は「上る」、南にある場所は「下る」と表示されます。 京都と奈良は、8世紀以降、平安京や平城京の都が置かれ、長い間、日本の政治や文化の中心であった。「古都」とよばれています。世界文化遺産に登録されている清水寺や東大寺をはじめ、寺院や神社が多く、重要文化財に指定された建物や絵画、彫刻なども数多く残されています。また、西陣織や清水焼、奈良漬などの伝統的工芸品の生産も盛んで、京都に夏の訪れを告げる祇園祭など、さまざまな伝統文化も息づいています。このように、日本の歴史を感じられる京都と奈良には、国内外からの観光や修学旅行などで多くの人々が訪れています。しかし、2019年より流行した新型コロナウイルス感染症の影響で、観光産業は大きな打撃を受けました。

↑京都府の観光客数の変化

↑p.208-209



↑景観に配慮した姫路城近くの町並み(兵庫県姫路市、2018年)



↑古都を改装した「トリアス」

京都と奈良には、伝統的な町並みが多く残されています。しかし、歴史的な建物の近くに現代的なビルが建てられるなどして、古都の景観は失われつつあります。このため、京都や奈良では、住民の利便性を守りながら、古都の歴史と伝統を後世に受け継いでいくための、さまざまな取り組みが行われています。例えば京都では、伝統的な町並みがよく残っている地区などで、建物の高さやデザインを整えたり、電線を地中に埋めたりすること(無電柱化)が行われています。また、奈良でも町家だけをコンビニエンスストアやカフェなどの店舗に改装するなどの取り組みが行われてきました。ほかにも、興福寺五重塔や若草山への眺望の確保などを目的に、建物の高さが制限されています。これらの取り組みには、歴史を感じることでできる町並みの魅力を残したいという、古くに暮らす人々の願いが込められています。

↑京都府の観光客数の変化

↑p.208-209

国内の産業構造の変化や国際競争など、阪神工業地帯が直面したさまざまな課題と、それに対応する中で変化し続けた経緯を扱っています。将来に向けた展望についても触れています。

NEW

小・歴・公アイコン 小学校・歴史・公民・他教科との関連

小歴公 小学校・歴史・公民・他教科との関連

小学校での学習や、他分野・他教科と関連のある題材を示し、物事を多面的・多角的に捉える足がかりとなるようにしています。また、分野間・教科間でのカリキュラム・マネジメントを実施する指標となるようにしています。

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解「日本の諸地域」

学習を振り返ろう

白地図を用いた知識・技能の確認と、思考ツールなどを用いた学習内容の整理を行い、最後に節の問いに対する自らの考えをまとめられるようにしています。

未来に向けて

各地方の特色となる地理的事象をSDGsと関連させて追究できるようにしています。

国土理解が深まる

学習を振り返ろう 3節 (p.199～211) **近畿地方**

3節の問い 近畿地方の環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

節の振り返り 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう **知識** 地図活用

1. A～Gにあてはまる府・県庁所在地名と、その府・県名を答えよう。
2. ①～④にあてはまる湖名、海名、河川名、山地名を答えよう。
3. ①～⑤にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

日本海沿岸 (→ p.211)
ずわいにかき漁業が盛ん

① 湖 (→ p.204～205)
・東京大都市圏に次ぐ人口集中地帯
・「水の都」や「天下の台所」とよばれ、古くから商業が発達していた大阪
・市街地を広げる工夫をしてきた神戸
・人口増加に伴って、郊外の丘陵地に「宅」を建設

② 阪神工業地帯 (→ p.206～207)
・大阪府の東部に「宅」の工場が多い

京都・奈良 (→ p.208～209)
・歴史的景観や文化財を生かした観光が盛ん
・西陣織などの「産」の生産が盛ん

③ 山地の森林 (→ p.210～211)
・古くから林業が行われてきた
・「産」の自給を目的とした取り組み
・熊野古道の保全活動

④ 海 (→ p.202、204～205)
・「宅」の人々の生活用水
・水質を改善するための取り組み
・川や瀬川を生かしたまちづくり

⑤ 川 (→ p.202、204～205)
・水質を改善するための取り組み
・川や瀬川を生かしたまちづくり

節の重要語句 簡単な説明ができた語句にチェックを入れよう。

<input type="checkbox"/> 琵琶湖	<input type="checkbox"/> 季節風	<input type="checkbox"/> ニュータウン	<input type="checkbox"/> 中小企業
<input type="checkbox"/> 淀川	<input type="checkbox"/> たけのこ	<input type="checkbox"/> 阪神工業地帯	<input type="checkbox"/> 伝統的工芸品
<input type="checkbox"/> リニア海岸	<input type="checkbox"/> 京阪神大都市圏	<input type="checkbox"/> 公害	<input type="checkbox"/> 地球温暖化

節の振り返り2 節の問いについて、あなたの考えをまとめよう **思考・判断・表現**

1 節の問いについて、図でまとめよう
◆この節の学習を振り返りながら、図の①～⑤を埋めて、環境保全の取り組みに着目した近畿地方のまとめを完成させよう。

2 節の問いについて、考えを深めよう **対話**
◆図2をもとに、近畿地方の環境保全の取り組みが分かる写真と、その写真を補足するための資料(写真やグラフ、地図)を一つずつ、教科書や地図帳、ウェブサイトなどから選ぼう。
◆グループになって、選んだ写真や資料とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの「写真で語る近畿地方(→p.200～201)」をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。

3 節の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう
◆図2をもとに、近畿地方の特色を文章で簡単にまとめよう。

3節の問い

- 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。
- ヒント1 近畿地方では、人口増加や産業発展などによって、どのような問題が生じた?
- ヒント2 近畿地方で行われている環境保全の取り組みは?

5 振り返り **主体的な学習**

- 節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことができた □できなかった □あまりできなかった →よくできた点や改善したい点などを書き出そう。
- 節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。

↑p.212-213

左ページでは、白地図を用いながら暮らしや産業などについて記述した文章の穴埋めをして、重要用語の確認ができるようにしています。

右ページでは、近畿地方の略図を用いて環境保全のために行われている取り組みを整理できるようにしています。問題が発生した原因と、それに対する取り組みを整理することで、節の問い「近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。」について自らの考えをまとめられるようにしています。

未来に向けて 環境につかわれた産業の発展のために
～地場産業から先端技術を生み出してきた京都の企業～ **伝統・文化**

日本には、伝統工芸など地域に根ざした地場産業が数多くあります。地場産業は、その土地の自然環境を背景に、入手しやすい原材料を生かして、独自の品々を生み出してきました。さまざまな製品を生み出してきた京都の企業は、伝統技術を生かしながら発展していくために、どのような取り組みを行ってきたのでしょうか。

伝統的工芸品の指定品目数

京都の企業は、長い歴史のなかで育まれてきた地場産業(→p.229)があります。京焼・清水焼、漆器などは、京都を代表する伝統的工芸品として知られています。また、清酒や京漬物(写真1)、京料理は、きれいな水や京野菜など、地域で得られる原材料を生かした地場産業として発展し、現在では観光資源の一つにもなっています。

一方京都は、先端技術産業の分野でも、国内の重要な製品の一つでもあります。病院での診断や航空機に使われる精密機械、集積回路(IC(→p.177)の基盤から、駅の自動改札機やゲーム機(写真2)といった身近なものまで、さまざまな先端技術が京都の企業から生み出されてきました。これらの先端技術産業のなかには、地場産業と深く関わっているものがあります。例えば、京焼など陶磁器を生産する技術から、耐熱性などに優れたファインセラミックス(→p.223)を開発し、家電製品などに組み込まれる部品を製造している企業が多くあります。これらの企業のなかには、メガソーラー(写真3)や住宅用太陽光発電システムなどの環境技術においても、世界的なメーカーとなっている企業があります。このように、伝統技術を生かしながら、社会の変化に応じて新たなものづくりに挑戦することで、京都の企業は大きく発展してきました。

現在の京都の産業をリードしているのは、主に戦後から1970年代にかけて生まれた企業です。しかし、それ以降は、京都で新たに企業を立ち上げる例が少なくなっています。そのため都市では、京都大学など新しい技術者が育つ環境を生かしながら、企業を立ち上げるための講習会を開催したり、新しい企業を支援するための施設をつくったりするなどの取り組みを進めています。

4 京都の企業は、伝統的工芸品の指定品目数(2019年) 京都府(京都府産業局)

5 京都の企業は、伝統的工芸品の指定品目数(2019年) 海外でも人気があります。

6 京都の企業は、伝統的工芸品の指定品目数(2019年) 海外でも人気があります。

7 京都の企業は、伝統的工芸品の指定品目数(2019年) 海外でも人気があります。

↑p.216

関連するSDGsのゴールをアイコンで示しています。

本資料p.24で紹介している「古都京都・奈良と歴史的景観の保全」の学習と関連させて、京都の伝統工芸品が地場産業や先端技術産業に成長して、現在に受け継がれている背景を記述しています。

節末「未来に向けて」掲載ページ一覧(全7か所)

ページ	地方	タイトル	テーマ
p.182	九州地方	自然環境の再生から資源循環型社会へ～工業の発展と公害をいち早く経験した福岡県北九州市～	環境・エネルギー
p.198	中国・四国地方	通信網を生かした地域おこしの取り組み～徳島県神山町や上勝町のICT活用～	情報・技術
p.216	近畿地方	環境につかわれた産業の発展のために～地場産業から先端技術を生み出してきた京都の企業～	伝統・文化
p.232	中部地方	時代の変化に対応する産業の創出～新たなものづくりに挑戦を続ける浜松市を例に～	情報・技術
p.248	関東地方	公共交通を活用したまちづくり～コンパクトシティを目指す栃木県宇都宮市～	情報・技術
p.264	東北地方	災害からの復興と生活の場の再生～高台に移転した岩手県宮古市田老地区～	防災
p.280	北海道地方	多様な文化を大切にしている取り組み～自然と共に生きるアイヌ民族を例に～	人権・多文化

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

世界と日本の諸地域学習の「序説」

文章だけではわかりにくい、地域の特色と課題の関係について、写真やイラストを用いてわかりやすく説明しています。

第2章 世界の諸地域

学ぶにあたって

第2部第1章では、さまざまな自然環境の下で暮らす人々の生活の工夫や近年の生活の変化、さまざまな宗教と生活との関わりなどを学習してきました。

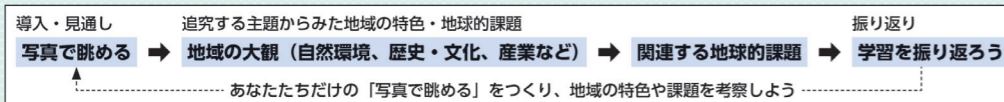
第2章では、p.3 図5で学習した世界を六つの州に分ける方法を利用して、世界の諸地域を学習します。各州には、地域を追究する主題が設定してあり(図3)、この主題に沿って、地域の特色をとらえていきます。

2章のわらい 世界の各州における地域の特色や、その特色と地球的課題との関係をとらえよう。

各州の特色をとらえる際は、州ごとの自然環境や歴史・文化、産業といった地域の特色を学習します(図1・2)。そのなかで、経済格差や熱帯林の破壊など、地域にみられる課題にも目を向けてみましょう。これらのなかには、地球規模で共通してみられる地球的課題もあります。これらの課題を解決するための方法を追究することが、私たちが暮らす地域をよりよくするためのヒントにもなります。



↑1 地域の特色と地球的課題の関連を示した例 地域の特色は地球的課題にも結びついています。例えば、ブラジルは世界有数の牛肉の輸出国です。牛肉の輸出は、国の経済を支える大きな産業であり特色の一つになっています。しかし、牛を飼育する牧場は熱帯林を伐採してつくられるため、熱帯林の破壊や、地球温暖化という地球的課題を引き起こす原因にもなっています(→p.114)。



↑2 第2部第2章における各州の学習の展開

州	地域を追究する主題	注目する地球的課題	州	地域を追究する主題	注目する地球的課題
アジア州	急速な経済成長	都市・居住問題	北アメリカ州	巨大な産業	生産と消費の問題
ヨーロッパ州	国どうしの結びつきの強まり	経済格差	南アメリカ州	農地や鉱山の開発	熱帯林の破壊
アフリカ州	特定の産物に頼る経済	食料問題	オセアニア州	他地域との関係	多文化の共生

↑3 各州における地域を追究する主題と注目する地球的課題

各州における地域を追究する主題と、注目する地球的課題について一覧で示し、各州でどのような地球的課題を扱っているかが一目でわかるようにしています。

世界と日本の諸地域学習の冒頭には「序説」を設置し、地域的特色を追究する際の視点(主題)と地球的課題・地域の課題の関係を端的に示しています。

地域に見られる課題には、現在進行している事例だけでなく、課題を克服した事例も含めています。これらの事例を参考にすることで、より具体的に地域の「持続可能な発展」について考えられるようにしています。

第3章 日本の諸地域

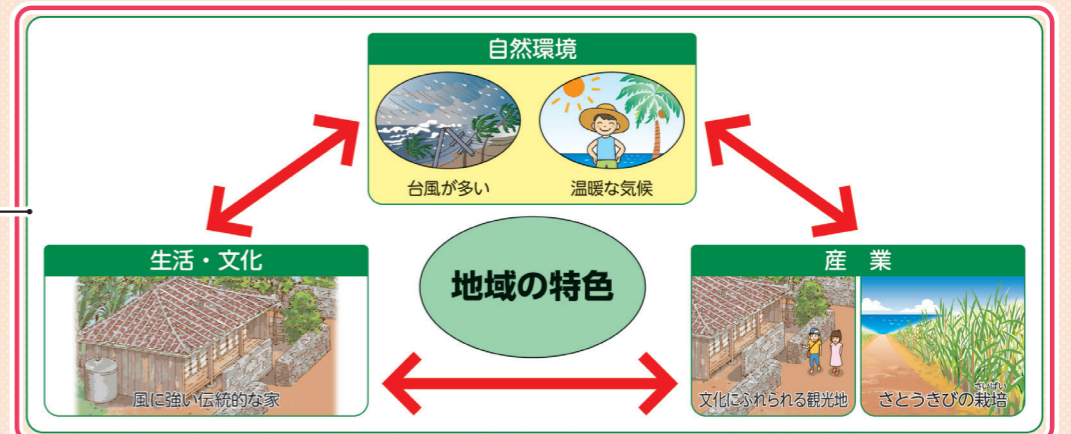
3章のわらい 日本の各地方における地域の特色や、その特色と地域にみられる課題との関係をとらえよう。

学ぶにあたって

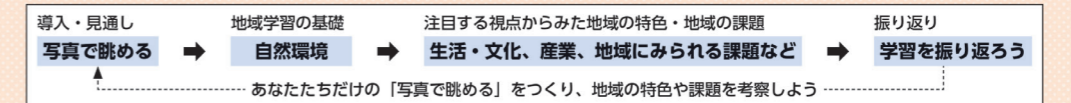
第3部第2章では、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信などの視点から、日本全体の特色を学習してきました。しかし、その特色は地方によって異なります。

第3章では、p.164 図3で学習した日本を七つの地方に分ける方法を利用して、日本の諸地域を学習します。各地方には、地域を追究する際に注目する視点が設定してあり(図3)、この視点に注目しながら、人々の生活・文化や

産業など、地域の特色をとらえていきます(図1・2)。また、各地方の特色をとらえる過程においては、地域にみられる課題を人々がどのように克服してきたのか、また課題にどのように取り組もうとしているのか、ということにも目を向けてみましょう。この章の学習を通して、地域社会をよりよくするためには何が効果的なのかを考え、そして私たちは何ができるのかを考えていきましょう。



↑1 地域にみられる事象の関連を示した例 地域のごまごまな事象には関連があります。例えば南四諸島では、「温暖な気候」であるからこそ、「さとうきび」という特産品が生まれ、「台風が多い」という自然環境の課題があるからこそ、「風に強い家」が生まれました。さらに、「風に強い伝統的な家」は、観光資源にもなっています。これらの事象すべてが、地域の特色をつくり出しています。



↑2 第3部第3章における各地方の学習の展開

地方	注目する視点	地域にみられる課題	地方	注目する視点	地域にみられる課題
九州地方	自然環境	温暖な気候を生かした産業の発展 火山への対策	中部地方	産業	地域の特性を生かした新たな産業の発展
中国・四国地方	交通や通信	交通や通信を生かした産業の発展 過疎地域の活性化	関東地方	人口や都市・村落	人口の集中を生かした産業の発展 過密への対策
近畿地方	環境保全	環境に配慮した産業の発展 自然環境や歴史的景観の保全	東北地方	生活・文化	伝統文化を生かした産業の発展 伝統文化の継承
			北海道地方	自然環境	寒冷な気候を生かした産業の発展 厳しい寒さや雪への対策

↑3 各地方における地域を追究する際に注目する視点と地域にみられる課題

各地方における地域を追究する際に注目する視点と、地域に見られる課題について一覧で示し、各地方でどのような課題を扱っているかが一目でわかるようにしています。